

地区とのタウンミーティング 議事概要

日 時	令和8年2月13日（金）午後6時～午後7時
地 区	藤が尾地区
場 所	藤が尾会館
参加人数	13人

テーマ1「公共交通について」

主 旨（区長）

- 高齢化が進む中、高齢者の通院等の移動手段として、コミュニティーバス（おりひめバス）の利便性向上が重要である
- バスの便数や時間帯について、より利用しやすい運行となるよう意見交換を行いたい。

市 長

- 京阪バス撤退後、市として令和7年3月からおりひめバスを運行している。年間約2億円の経費を要しており、運賃収入は約5千万円である。令和8年度からは、国の補助金を最大限活用できるように申請中である。
- バス路線の変更は、国の補助金の関係により令和8年7月からの変更予定となっていることをご理解いただきたい。
- 南部ルート（交野市駅方面）は、私市郵便局前へのバス停の追加、便数の増便及び最終便の運行時間の延長を予定している。
- 南部ルート（星田駅方面）は、便数の増便に加え、平日朝の3便は乗車人数の状況を踏まえコモンシティを経由するが、それ以降の便は星田駅へ直接向かうよう変更予定である。なお、土日祝日の運行は、すべて星田駅へ直接向かう予定である。
- 外出支援事業は、令和8年度より、これまでの4,600円から6,000円に引き上げる予定であり、利用回数の増加につながる見込みである。
- 地域の声を踏まえ、路線は毎年見直しを行い、国の補助金を活用しながら改善していく予定である。

意 見

- 交野市役所前に直接停車してほしい。高齢者にとって乗り換えは負担である。
→ [市長] 藤が尾地区のルートは中型車両による運行となるため、交野市役所に直接停車させることは道路事情により困難である。乗り換えは必要となるが、河内磐船駅からワゴン車が1時間に2本、交野市役所へ直接向かう便がある。乗り換えがあることは課題であると認識している。
- 乗り換えがあると利用者の負担が増える。
→ [市長] 外出支援事業の拡充を予定しているが、現時点では乗り換えに伴う運賃負担は発生する。定期券制度の在り方も含め、引き続き検討を行う。

テーマ2「地域活性化について」

主旨（区長）

- 藤が尾地区には2つの高層団地住宅があり、空室が目立っている。
- 若い世代が住みやすい環境整備や、今後の建替え計画等について説明を求めたい。

市長

- 藤が尾地区には、府営住宅（14棟・約560戸）と住宅供給公社の住宅があり、府営住宅については、大阪府より令和12年度頃を目途に、建替えに関する検討・協議に入るとの方向性が示されている。
- 住宅供給公社の住宅については、現状維持との説明を受けている。
- 梅が枝地区では、過去に耐震性の問題を抱えていた3棟の建替えが行われた。高層化及び集約建替えを進め、余剰地を売却する方式が採用されている。事業完了までには20年程度を要する見込みである。
- 藤が尾地区の府営住宅の建替えについては、地区と大阪府との協議にもよるが、空室の多い棟から順次進めることが一般的である。それに伴い、住民には別の棟へ一時的に移転していただき、建設完了後に元の棟へ戻ることを繰り返し行うことが想定される。市としても、住民の意見を踏まえながら、大阪府及び住宅供給公社に対し要望を行っていききたい。
- 建替えの順番については、建設年次の関係から、梅が枝住宅より藤が尾住宅の方が遅くなることが想定される。

意見

- 令和12年度から検討開始では遅いのではないかと。
→ [市長] これまで大阪府に対し藤が尾住宅の建替え時期について要望を行ってきた結果、令和12年度から検討を開始するという具体的な時期が示された経緯がある。しかしながら、令和12年度からの検討開始では遅いと認識しているため、速やかな建替えを要望していききたい。住宅供給公社についても、同様に建替えの要望を行っていく考えである。
- 老朽化が進んでいる棟を優先すべきではないかと。
→ [市長] 大阪府の方針としては、空室率やエレベーターの設置状況を重視しているものと考えられる。全ての住民が満足する形とすることは難しいが、市としても安全面に関する懸念について大阪府へ伝えていきたい。
- 京都・男山団地のようなリノベーション活用は検討できないかと。
→ [市長] 住宅の所有者は大阪府及び住宅供給公社であり、市単独での改修は困難である。市としても可能な限り協力する旨を伝えつつ、抜本的な整備を要望していききたい。

テーマ3「道路・街路樹問題について」

主旨（区長）

- 地区内の街路樹が高木であり、落葉や根上がりによる歩道の損傷が発生しているため、高木から低木への植え替えが可能か確認したい。

市長

- 植え替えは可能である。実際に交野市の国道168号では、高木を伐採し、低木（ハナミズキ等）へ植替えた事例がある。しかしながら、街路樹の伐採については賛否が分かれることが多いため、地域で意見を取りまとめたうえで、市へ要望していただきたい。
- 道路の問題については、来年度に藤が尾小学校西側通学路の舗装改修を予定している。

意見

- JRのアンダーパスの現状を説明していただきたい
→[市長]フレンドタウン周辺の土地は市街化調整区域であり、本来は開発や建築が制限されている区域であるが、「地区計画制度」を活用し、一定の条件のもとで開発が許可された経緯がある。その条件の一つとして、浸水対策や道路整備、特にJR下を通るアンダーパスの整備が開発事業者に求められていた。しかしながら、現在に至るまでアンダーパスは整備されておらず、開発は完全には完了していない状況である。当初の整備期限は延長され、現在は令和12年度まで延長されている。
道路整備については、開発条件として事業者が整備することとなっているため、市が主体となって整備するものではなく、事業者と地域において十分に協議されるべきものであると認識している。
周辺の防災用地については、大阪府所有の土地を市が借り受け、地域に提供している。過去に大阪府と交野市の間で当該土地を市が購入する旨の覚書が締結されており、市としては令和10年度を目途に、防災目的で土地を購入する予定である。購入にあたっては国の補助があり、市の実質負担は約3割となる見込みである。
一方で、国道168号の渋滞対策及び交通の利便性向上の観点から、都市計画道路（天の川磐船線）の一部区間については、市として整備の必要性を認識しており、今後も検討を進めていく。
- 通学路の排水不良や落葉の堆積を改善してほしい。また、電柱の表示や看板が劣化している。
→ [市長] 該当箇所を確認のうえ、担当部署で対応する。